

科目名		授業形態	担当教員名	
摂食嚥下		講義	今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科医療が担うべき摂食嚥下の病気、病態及びその対処法を理解し、摂食嚥下機能の保持増進の知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 摂食嚥下運動にかかわる器官の基本的な解剖と正常な摂食嚥下機能のプロセスを説明できる。 2. 摂食嚥下機能障害の代表的な病気と病態を説明できる。 3. 摂食嚥下機能障害患者の診療における歯科衛生士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	摂食嚥下障害とは			
2	摂食嚥下のプロセス：命令嚥下と自然嚥下、5期モデルとプロセスモデル			
3	誤嚥とその原因			
4	摂食嚥下に関わる構造（口腔・咽頭・鼻腔）			
5	摂食嚥下に関わる構造（喉頭）			
6	摂食嚥下に関わる機能とメカニズム			
7	摂食嚥下に関わる機能と評価			
8	摂食嚥下リハビリテーション（アセスメント）			
9	摂食嚥下リハビリテーション（訓練の考え方・計画立案）			
10	摂食嚥下リハビリテーション（基礎訓練）			
11	摂食嚥下リハビリテーション（摂食訓練）			
12	摂食嚥下リハビリテーション（訓練まとめ）			
13	リスクマネジメント			
14	摂食嚥下リハビリテーションの症例検討			
15	摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	講義中に検討したことをレポートとして提出を求める。		
レポート・課題	20%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版		公益社団法人日本歯科衛生士会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				